

平成30年第2回小国町振興審議会 会議録

- 日 時 平成30年11月7日（水）15：00～16：30
- 場 所 役場 4階 大会議室
- 出席者 高橋和衛会長、高野健人委員、遠藤和彦委員、伊藤通芳委員、
鈴木正昭委員、渡部俊広委員、河内昭佐委員、舟山孝夫委員、
岡崎昌之委員、照井洋悦委員、佐藤宏一委員、角掛繁委員
副町長、事務局（6名）

○内 容

第1号 第5次小国町総合計画基本構想（案）について

第5次総合計画基本構想（案）について、内容を事務局から説明した。
各委員からの意見は以下のとおり。

（渡部俊広委員）

計画の中で労働力不足が指摘されており、若い世代が町内に就職、就業していないことがあげられているが、これは非常に大きな問題である。ほとんどの高校生が、卒業後に町外へ出ており、これを何とかする方策を入れてもらえないか。町内の企業に魅力が無いのかという見方もある。それに対する施策を盛り込んでほしい。

（照井洋悦委員）

前回の振興審議会で示された策定要領から、随分悩まれて作成されていると感じた。当初は“ブランド”というキーワードがあったが、何となく薄らいでいる印象がある。その代わりに、難しい文言が入っている。

内容の中で良かった点は、まちづくり座談会を実施して、直接町の課題を拾い上げていること。問題の見える化がされており、一目見て問題がわかるような表現ができている。

隣の家がなくなったなど、現実が、よりわかるような表現をいれてはどうか。

人と暮らしと環境という表現があるが、そういうものを町レベルから集落レベルまで分けてみてはどうか。小国は広いので、中心部、北部、南部、東部、その辺が見える構想だと良い。大きいものも小さいものも、一緒に考えられると難しものがある。

（伊藤通芳委員）

これは誰に見てもらう計画か。

(事務局)

基本的には町民の皆様に見てもらい、理解してもらうことが一番大きな事だと考えている。

(伊藤通芳委員)

そうであれば、表現が難しすぎてわからない。内容も、同じようなことを別の観点から書かれてあり、もう少しシンプルにならないものかと感じた。

(鈴木正昭委員)

今、ベトナムからの技能実習生を受け入れている。建設業界でもミャンマーから受入をしている。製造業では研修制度に制約もあり、活用しにくい。入管法が改正され、4月からも技能実習生を受け入れていくことになるが、我々としては研修生ではなく、労働者として積極的に受け入れていく必要がある。そうなると、町内の外国人労働者が増えていくと思われるが、住宅の問題など、町としてどうするのか、その辺を早急に考えてほしい。

(角掛繁委員)

当社でもベトナム人の技能実習生を10名ほど受け入れている。制度が少しずつ改善していくといわれていくが、ドラスティックな改善がないと、企業としては継続して活用できる状況ではないので、町としても働きかけをしてほしい。

どうやって町民の皆さんに、この構想を具体化して浸透させていくかはこれからの課題だと思う。まるごとブランド化についても、広報などで周知しているようだが、社員に聞くと、まだ理解していないような状況である。以前計画を作成した際は、内容を浸透させるため、役場に説明会を開いていただいたことがあった。会社としても、今回の計画を浸透させる場を設けたい。トップの考えを社員に伝えるということは、企業として一番大事なことで、町としては町民に伝えることが大事だと思う。その辺を計画に盛り込んでほしいし、実行面で工夫をしてほしい。

第4章第1節に、ふるさと納税やふるさと町民に関する記載があるが、計画を具体化させる上で重要なことだと思う。外部から原資を集めることは大事なこと。岩手県雫石町で地熱事業を行っているが、企業として雫石町の観光大使を引き受けており、東京でのPR活動やディスカッションをしている。そういう点でも企業として協力できる。また、企業版ふるさと納税という制度もある。それも合わせて、構想の実現に協力できると思うので、活用いただきたい。

計画期間の終期について、平成という元号ではなくなるので修正してほしい。

(遠藤和彦委員)

小国の地形や経済圏を、他所の人が注目して見ている。人口が減り、逆に進出しやすいという企業もある。昨年来、新潟県新発田市の養鶏会社では、小国町内で雛を育てる場所を造りたいということで、地元説明会を開催した。住民からは、誘致に対し積極的な意見が出された。

他にも、町内で酪農がしたいという話やウイスキーの会社が樽を作りたいとの話もあるようだ。人口は減るが、小国で仕事をしたいとの話が多く耳に入っている。そういうものが入ってくことで、人の交流や経済活動が活発になる。

文章はわかりやすく、やわらかい表現が良い。一般町民には難しい。

(岡崎昌之委員)

先月、都内で有識者会議を開催したが、その際に、計画がわかりやすくなるようにイラストを入れたらどうかとの意見も出た。それは別バージョンで作成してもよいのではと思っている。

これまで、全国の各自治体の計画は、人口増という拡大志向の中で考えられてきた。人口減少の中、縮むことを真正面に受け止め、その中で、今住んでいる人、将来住もうとしている人を中心に添え、やや縮小する町の中で、快適な生活をどうつくるのが重要。

また、大きな柱は町の特徴を捉えること。小国は非常に特徴的な町。山深い地域性の中にハイテクな企業が立地していることは、日本の農山村では極めて稀なこと。今のところは、住民と企業の間には差があるのではないか。つまり、住民があまり企業のことを知らないため、高校生が町外へ出て帰ってこないのではないか。

農業の分野では、全国で中国人やベトナム人を研修生として受け入れており、長野県などの事例を知っている。ある地域では、中国人だけで一定の集落形成までしており、その中で何が起きているのかわからず、住民が脅威をもってその一団を見ているという厳しい事例もある。入管法の改正は、大きな問題となる恐れもある。そういう受け入れも重要だが、その前にやらなくてはいけないのが、町の若い人が町内で働けるような環境をつくること。非常に大きな存在感を持っている中核企業と若い人をどう結びつけるのか、計画の中できちんと考えていかないといけない、重要な問題である。

縮むということは、コンパクトシティや小さな拠点という流れだが、山崎亮さんという方は、縮むことを”縮充“という表現を使っている。縮む中で充実した生活をどうつくるか、そういう主張をしている。小国のような農山村の将来を示す、おもしろい言葉だと感じている。これだけの広大な、宝の山のような小国で、縮小していった中心部に人が流れていくことは押し止められない。頑張って地域に住みなさいということは言えないが、もし集落に住み続けたいという人がいれば、きちんと支援していくことも重要。集落間や、集落と町中心部のモビリティ、移動性を担保するというこ

とを、きちんと総合計画に書き込む必要がある。そういうことを、町民にきちんと伝えることは重要ではないか。

まちづくりのリーダーとして頑張ってきた小国町で、縮小するが充実した居住空間をどうつくるか、総合計画に書き込んでほしい。

2 ページの第3節、アンケート調査を実施したとの記載の部分で、いずれも人口減少や高齢化といった厳しい内容が記載されているが、せっかく中高生からも意見をもらったのだから、明るい部分も記載してほしい。

(佐藤宏一委員)

基本構想はある程度抽象的な表現や難しい表現をちりばめて作成するということが必要だが、もう少し具体的に、住民にもわかりやすい表現にしてはどうか。

特産品づくりなど、これまでにないチャレンジを進めていくというのは、明るい部分で、より具体的に書き込んでいけるのではないか。白い森というのは、ドイツの黒い森の対照の表現であるが、ブナをはじめとした広葉樹は森の中が明るくなるが、小国の明るいトーンを強調しても良いと思う。

町で取り組んでいる、東北芸術工科大学、株式会社オカムラとの3社協定に関係し、国有林を原材料として供給する立場では、以前は自然保護の観点から伐採は難しかったが、今は地域産業に貢献するための伐採はできるので、国有林も有効に活用してほしい。

以前、新潟からの来町者を天狗平まで案内したときに、橋の下の川辺まで下りたいという要望があり、遊歩道の整備を計画している。身近にできることから取り組んでいき、明るいまちづくりに協力したい。

町では、クロモジなどの高収入品目について事業化しているが、山の資源を効率的に活用し、他との違いを打ち出し、PRの仕方を工夫してはどうか。高齢者の方々は、これまで地域を支えてきた方々なので、地域で新しい産業を興すことで、生きがいを持てるようなまちづくりにつなげていけばいい。そういう具体的な記述を、全体のバランスを考えて記載してはどうか。そうすれば、読み手が理解できるような構想になっていくのではないか。

(河内昭佐委員)

こういう計画を作るとき、言葉を選びながらの作成となるが、あまり長いと誰も読まない。箇条書きでも良いのではないか。また、これまでの計画の反省に立って、次にどう進むかという内容になっているのか、言葉が違うだけで、前と同じ計画ではないか。それでは町民の方は納得しない。イラストがあると見やすいので、そういうものを折り込みながら作成してはどうか。

何をするにも、将来活躍する人物を育てないとダメだが、それをどこでするのか、

考える必要がある。

貴重な財産がなくなっている。そういう文化財を保管する所が無い。観光資源も沢山あるが、絵を描くところや写真を撮る所が無い。そういうところも考えながら具体的に作成していく必要がある。

(高橋和衛会長)

8ページの「めざすべき姿」について、ご意見はないか。

(佐藤宏一委員)

小国音頭の歌詞やブランドストーリーのような表現は親しみやすい。特に小国音頭の歌詞は地域に根ざした生活文化そのものであり、載せても良いのではないか。このままでは堅い表現。

(照井洋悦委員)

飯豊町では、「日通の森」森林育成活動を実施している。小国町はこれだけ大きな森林面積があるので、参考にしてはどうか。

(高橋和衛会長)

これまで出た意見について、事務局からお願いします。

(事務局長)

総合計画の枠組みとして、基本構想と基本計画の2段構えになっている。基本構想は、総合計画を作る上での基本的な理念や考え方を整理し、意見をいただきながらまとめ上げ、最終的には議会の議決を得て策定するという流れ。この基本構想に付随して基本計画があり、構想で謳った内容を実現していくために、具体的にこの施策を実施していくというもので、年度別、政策別、財政別に積み上げていく。基本計画は、あくまでも事務的な内容のもので、庁内で完結していく。本日提案があった具体的な事業については、基本計画に盛り込んでいかななくてはいけないと感じた。例えば、就業者の確保という点では、高校生や保護者と町内の中核企業を訪問させていただく機会を設け、住民と会社の接点を探ったりしている。具体的に町内に定着するためには就職する場所が無いということではなく、若者にとって住む上での魅力が無いということだと思うので、町の限られた環境の中で、住みやすい生活支援をどうしていくか、そういう視点に立って、若者が定住していける環境づくりを計画していきたい。具体的なことは追って説明させていただきたい。

照井委員からあったように、小さな集落に、一つの若い家族が移住しただけで数字が激変する、そういう視点で地域づくりを見ていきたい。これまでは町全体を見てど

うするかということが主体だったが、もう少し集落に入っていくと、小さな力で大きく変わるといふ実態があるので、そういう視点で考えていきたい。

基本構想ではあるものの、これではわかりにくい。わかりやすい表現にするため、イラストを入れてはどうかとの提案もあったが、どの程度対応できるか、整理することとしたい。住民に対する周知については、もう少し考えていきたい。

完成までもう少し時間があるので、検討を進めていきたい。